

## 平成30年度自己評価

点検の評価

【4】適切 【3】ほぼ適切 【2】やや不適切 【1】不適切

項目	点検項目	点検評価
教育理念・目的・育人人材像等	1-1 学校の理念・目的・育人人材像は定められているか	4
	1-2 学校における職業教育の特色は何か	4
	1-3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
	1-4 学校の理念・目的・育人人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
	1-5 各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念としている産学共同現場実践教育は、全職員が理解しており、長くエンタテインメント業界で活躍できる人材を輩出するために邁進している。</li> <li>・実務経験のある教員が講義をすることで、現場で求められている柔軟性、協調性などを築くことのできる教育を目指す。</li> <li>・世界に誇ることの出来る日本のエンタテインメント業界の情報の収集し、業界の動きを把握し、カリキュラムなどに反映している。</li> <li>・学科ごとに学科担任を置き、学生の状況把握に心がけている。また学生の個性を伸ばすために面談をおこない、方向性を共有している。</li> <li>・講義の殆どは実務経験のある教員がおこなっており、業界で求められていること、業界の動向は把握できている。</li> </ul>	

点検の評価

【4】適切 【3】ほぼ適切 【2】やや不適切 【1】不適切

項目	点検項目	点検評価
学校運営	2-6 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
	2-7 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
	2-8 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4
	2-9 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
	2-10 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
	2-11 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
	2-12 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
	2-13 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針は、年度末に実施されている講師会、教務会議等を通じて方針は打ち出している。</li> <li>・年度頭に立てられた運営方針を元に策定されている。</li> <li>・意志決定がされる会議の報告は、定期的に開催される会議等で報告されている。</li> <li>・個人情報などのコンプライアンスについては、会議等で職員には周知徹底している。</li> <li>・学校ホームページ等を利用して、教育活動等の公開をおこなっている。</li> </ul>	

点検の評価

【4】適切 【3】ほぼ適切 【2】やや不適切 【1】不適切

教育活動	3-14	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
	3-15	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
	3-16	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
	3-17	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
	3-18	関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行なわれているか	4
	3-19	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
	3-20	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
	3-21	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
	3-22	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3
	3-23	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	2
	3-24	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
	3-25	関連分野における業界との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行なわれているか	4
	3-26	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行なわれているか	3
	3-27	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針は、年度末に実施されている講師会、教務会議等を通じて方針は打ち出している。</li> <li>・各学科ごとの企業・業界団体からの意見のカリキュラムへの反映を更に制度化して行きたい。</li> <li>・年度頭に立てられた運営方針を元に策定されている。</li> <li>・インターンシップ、実習などの効果が非常に大きい事は確認されているが、制度的な評価の体系については更なる体系化への取組みが必要。</li> <li>・2019年度より、年度カリキュラムの中での「成績認定会議」「進級・卒業判定会議」の開催による学習評価のシステム化が導入された。</li> <li>・それを統合する形での「自己評価」の提出、また外部関係者による「学校評価」にも取り組み始めている。</li> <li>・直接、専門教育に携わる職員だけでなく、新入職員の研修、事務職スタッフの研修なども実施されている。</li> </ul>			

点検の評価

【4】適切 【3】ほぼ適切 【2】やや不適切 【1】不適切

学修成果	4-28	就職率の向上が図られているか	4
	4-29	資格取得率の向上が図られているか	2
	4-30	退学率の低減が図られているか	4
	4-31	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
	4-32	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3
	<p>・就職率自体については、学科に拠っては必ずしも数値が向上している訳では無いが、年次誤差の範囲内に留まっている。                  ・学校としての取り組みについては、就職や所属に結びつく、学校独自の取り組みである「校内企業説明会」や「校内プロダクションオーディション」などについては強化されている。                  ・「資格取得」に関しては、そもそもエンタテインメント系の就職先・デビュー先が、資格を全く重視しないため、これまで、またこれからも配慮はするものの、教育のベンチマークになるとは考えていない。むしろ、自らの関わった「作品制作」、その完成度を上げるための教育上の工夫が必要である。                  ・退学率についても、過去数年の経緯と変化は無い。しかし、教育現場では、当該分野での学習と進路に強い志向を持つにもかかわらず、精神的に弱い学生が増える傾向にあり、第三者的な窓口を用意した。</p>		

学生支援	5-33	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
	5-34	学生相談に関する体制は整備されているか	3
	5-35	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
	5-36	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
	5-37	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2
	5-38	学生の生活環境への支援は行われているか	2
	5-39	保護者と適切に連携しているか	4
	5-40	卒業生への支援体制はあるか	4
	5-41	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
	5-42	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行なわれているか	4
	<p>・学科教務・担任によるサポートだけでは、長期欠席に陥る学生が出ている。                  研修を受けたスタッフによる「心の相談室」を開設、相談窓口を設けた。保健室機能の強化も図って、学生のサポートを充実させたい。                  ・制作業界での活躍が期待される人材へのサポートとして、2020年度入学者から「特待生制度」を開始する。                  ・文部科学省が発足させた「高度教育の無償化」に認定されるよう、要件整備を整えて申請する。                  ・保護者との連携は開校当初から非常に重要視している。最近では連絡が取れない保護者なども見受けられるため、連絡と確認が確実になるようなICT体制の確立が必要になりつつある。                  ・卒業生の制作業界での活躍をサポートするための“OBOGネットワーク”を活用して、業界内で活躍する卒業生の相互、情報交換 の場を用意すると共に、最先端スキル・マーケットスキルの勉強会などを、卒業生対象に年数回の開催を、キャリアセンター主催で 開催している。                  ・高校へは各学科から「出前授業」にも出ているが、高校内のカリキュラムに含まれる「選択授業」なども担当している。</p>		

点検の評価

【4】適切 【3】ほぼ適切 【2】やや不適切 【1】不適切

教育環境	6-43	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
	6-44	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
	6-45	防災に対する体制は整備されているか	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学希望者の増加に伴って、教室スペースの拡充に努めた結果、間接スペース(倉庫、サーバーールームなど)が手狭になる傾向がある。本校舎外にスペースを確保して、必要なスペース確保に努めている。</li> <li>・現場実習、インターンシップの機会提供については、引き続き、増加傾向にあるため、カリキュラム内における位置付けを明らかにし、制度化を進めたい。</li> <li>・火災・震災に対する避難訓練などは、毎年確実に実施されており、在校生数の増加にもかかわらず、結果は良好である。職員の訓練も所轄消防署の指導の下で実施されており、評価されている。</li> <li>・各上級校でも課題になっている、有事の際の学生の安否確認の方法については、引き続き研究を重ねたい。</li> </ul>		

学生の募集と受け入れ	7-46	学生募集活動は、適正に行われているか	4
	7-47	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
	7-48	学納金は妥当なものとなっているか	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の学生募集活動の取り組みの軸は、高校が実施する「進路ガイダンス」になっている。エンタテインメント制作業界に関しては、高校や保護者などの理解が不十分な面が多々あり、生徒の認識に齟齬がある場合も見受けられるため、学生募集活動は対面での説明が主体となっている。</li> <li>・高校教員を訪ねての業界説明。入学希望者には、保護者の理解と納得の重要性を繰り返し伝えるようアドバイスしている。</li> <li>・本学の教育成果は、何と言っても“至難である制作業界への進出”なので、その実例の押し出しがメインであるが、意向を変更して、あるいは、止むを得ず、別の業界へ就職した事例の説明なども、実数・パーセンテージを上げて説明している。</li> <li>・関西圏の同種の専門学校と比較して、学納金は妥当なものとなっている。</li> </ul>		

財務	8-49	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
	8-50	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
	8-51	財務について会計監査が適正におこなわれているか	4
	8-52	財務情報公開の体制整備はできているか	4
	<p>既に長期的な視野に基づいた、教育事業の拡大に取り掛かりつつあり、財務基盤の安定度は高まっている。</p> <p>それを背景に、収益事業の学校法人化などの計画も検討中である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営に直接関わる、予算計画・収支計画は安定しているために、校舎設備の改善・改修等も、年毎に取り組んでいける状況である。</li> <li>・財務に関わる会計監査は、監査法人を監事に立て、厳正に行われている。</li> <li>・財務諸表の公開は、「高等教育の無償化申請」「職業実践専門課程の認定取得」といった取り組みの中で、公開が開始される。</li> </ul>		

点検の評価

【4】適切 【3】ほぼ適切 【2】やや不適切 【1】不適切

法令等の遵守	9-53	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
	9-54	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
	9-55	自己評価の実施と問題点の改善を行なっているか	3
	9-56	自己評価結果を公開しているか	3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学は大阪府専修学校各種学校連合会に所属し、大阪府教育庁との連携を保った運営はなされている。</li> <li>・個人情報の取り扱い、データベースの管理には万全の注意が払われている。</li> <li>・自己評価に関しては、2020年度へ向けて公開の準備中である。</li> </ul>		
社会貢献	10-57	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
	10-58	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
	10-59	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の能力発揮を地域自治体等で活用してもらう事には積極的である。</li> <li>・2018年度に置いては、大阪市広報の委託により、「大阪市役所の電話待機メッセージの収録」を声優学科の学生が行った。また人事部からの委託に拠る「大阪市の人材募集ポスター」の「デザイン画」を作成、採用された。</li> <li>・学生のボランティア活動は、奨励しているものの、各学科とも作品制作が多忙な事もあり、目だった報告は上っていない。今後も学校として支援して行くようにしたい。</li> <li>・大阪府内の高校におけるカリキュラム内の取り組みとして、職業紹介なども含む「選択講座」を実施しているが、「地元・淀川区での一般を対象とする公開講座」的なものには、まだ取り組めていない。今後の課題でもある。</li> </ul>		
国際交流	11-60	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	2
	11-61	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	1
	11-62	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整理されているか	1
	11-63	学習成果が国内外で評価される取り組みを行なっているか	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学は、2019年度始業時点で、留学生は在籍していない。</li> <li>・専門学校として留学生が全く存在しないというのは、珍しい存在となりつつある。本学で積極的に留学生の受け入れを進めてこなかったのは、「国内でのエンタテインメント制作現場に就労するのが外国人の場合、非常に難しい」という制作業界サイドの事情に配慮したものであったが、近年、一部の制作現場では、関連法令の整備を踏まえて、今後は外国人の就労が広がる可能性が高い。</li> <li>・エンタテインメント作品のマーケットの国際化だけでなく、業界を担う人材の国際化も進むと思われ、本学に置いて、教育体制の整備を整える必要があると思われる。今後の取り組みに期待したい。</li> </ul>		